

総排出量単純比例型（指定袋方式＜一括購入・一括販売方式＞）

1 仕組み

ごみの排出量に応じて、排出者がごみの処理費用の一定割合を比例的に負担する方式。□
行政が決定した値段の袋を購入してもらい、袋代にごみ処理手数料が含まれている。

2 試算（平成29年度の排出量に基づく）

・現状（平成29年度）の原単位：1,029g/人・日

上記の内、週3可燃の原単位：451g/人・日（週3可燃総排出量：27,750t）

総排出単純比例型（指定袋方式）の試算

袋は全て20Lサイズで計算

※ごみ処理手数料（指定袋の価格）を1円/Lとして試算

歳 出		製造単価/枚 (円)	製造枚数	製造等経 費 (円)
	袋の製造経費(20L)	5.79	9,250,000	58,913,250
	小 計		9,250,000	58,913,250
	配送・保管料			5,365,000
	販売等委託料			10,175,000
	小 計			15,540,000
	合 計			74,453,250

歳 入	ごみ処理手数料 (円)(販売価格)	販売枚数	販売収入(円)
	20	9,250,000	185,000,000
	合 計		185,000,000

3 メリット・デメリット

メリット

- ・ごみ排出量の多少に関わらず手数料負担が発生するため、減量効果が期待できる。
- ・ごみを多く出す人ほど金銭的負担が大きくなるため、負担の公平性が図られる。
- ・仕組みが他の方式に比べ簡易であり、事務負担が少ない。

デメリット

- ・ごみ減量化に努力している人にも経済的負担がかかる。
- ・手数料の金額が低いと、減量効果があまり期待できない可能性がある。